

実りある 明るい未来へ

名張、国津小が「田楽アート」



「明」の文字が浮かび上がった田んぼで、児童らが稲刈り＝名張市神屋

名張市神屋の市立国津小学校の児童41人が9日、「明」の文字が浮かび上がった田んぼで稲刈りをした。

文字を浮かび上がらせた。今年、明るい未来を願って、「明」が出るよう5月に田植えをした。

児童らは鎌の使い方を教わり、田んぼに入って稲を刈り取っていった。収穫した米は11月の「国津っ子フェスティ

バル」でおにぎりにするなどして味わうという。

田んぼに「明」文字くつきり

国津小児童、大喜びの稲刈り

名張市神屋の市立国津小学校の全児童41人が9日、「明」の文字が浮かび上がった田んぼで、稲刈りを行った。「田楽アート」として、収穫期に文字に見えるように苗を植えた児童たちは、「文字がはつきり見えてすごい」と大喜びだった。水田は縦約60㍎、横約20

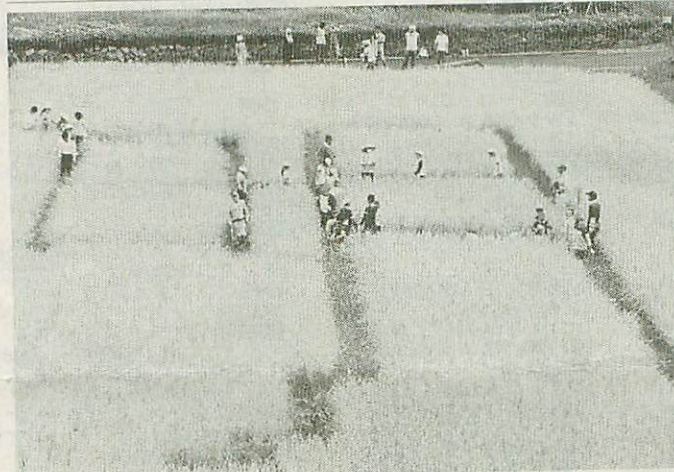
㍎。米づくりに関心を持ってもらおうと、同校が12年前から毎年文字を変えながら続けてきた。今年も「国津小の明るさを表現したい」と、児童が「明」の文字に決め、5月に苗を植えた。児童たちは、黄金色の田んぼに分け入り、1時間余りで3分の1を刈り取っ

た。約5000㍎の収穫が見込まれ、11月の学校祭で地域の人たちと一緒に味わう。5年生の土橋香月さん(11)は「苗が小さかったので、大きくなるかと心配してたけど、ちゃんと育ってよかった。食べるのが楽しみ」と話していた。



「明」の文字が浮かび上がった田んぼで稲刈りする児童(名張市神屋で)

田楽アートで児童ら稲刈り
国津小
名張市神屋の市立国津小学校(雪岡正明校長)の全児童41人が9日、学校近くの田んぼで、黄金色に実った稲を刈り取った。
国津小は、校区外の



児童たちが稲刈りをする田楽アート一名張市で

児童を受け入れ、少数教育をする小規模特認校制度を実施。農業体験学習として、苗が成長すると文字が浮かび上がる「田楽アート」を毎年している。今年

は「明るい国津の子になるように」という願いを込めて、5月に児童たちが田植えし、「明」の稲文字(縦約35㍎、横約15㍎)が描かれた。

くつきり「明」